



# 学校だより

広島市立安北小学校

広島市安佐南区高取北二丁目30-1

号外

## 平成25年度全国学力・学習状況調査 概要

今年度の全国学力・学習状況調査は、4月24日(水)に6年生を対象に行われました。

A問題は、主として「知識」に関する問題、B問題は主として「活用」に関する問題です。本校の平均正答率は以下のとおりでした。

国語								算数							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
62.7	65.8	63.8	63.2	49.4	52.7	51.7	51.6	77.2	79.2	77.9	78.5	58.4	61.3	59.7	63.5

### 【国語】

#### A 主として「知識」

平均正答率は63.2%で概ね学力が定着していると考えられます。その中でも、「言語についての知識・理解・技能」は平均正答率が全国平均を上回り、帯タイムや家庭学習での漢字・ローマ字の練習の成果といえます。また、読む能力や、関心態度も、正答率が60%以上でした。60%以下は「話すこと・聞くこと」「書くこと」の問題でした。

そのため、文章読解をさらに向上させるために、読解ワーク集を活用して読み取りの練習をしています。その際、繰り返し音読して文章をイメージ化し、中心となる文章、理由、具体例をしっかり把握した読みができるようにしています。具体的には新聞記事を配布し、音読して感想を書く学習に取り組んでいます。

#### B 主として「活用」

読む能力は、県平均全国平均をかなり上回り、例年に比べると良い結果となりました。しかしながら、Aの基礎問題と同じく記述式の正答率が44.4%と低くなっています。

児童は、自分の考えが明確になるように書く能力がついていない事がわかりました。そのためにさまざまなテーマを与え、三段落に構成して書くこと「①結論(自分の意見)先行で書く②理由を書き、具体例を示す。③まとめの意見を書く」の指導をします。具体的には“始め、中、終わり”の三つの構成に区切ってある用紙を使ってミニ意見文を書く練習をしています。

また、意見を述べた文章や活動を報告する文章などを目的に応じて編集する指導の充実を図っています。目的や意図を明確にし、どのような観点で取材し、どのような構成や文体で書くのかを具体的に指導したり表現方法の工夫などを提示しながら指導したりしています。

## 【算数】

### A 主として「知識」

平均正答率は、78.5%で概ね学力が定着していると考えられます。

「数と計算」「量と測定」「図形」領域の基本的な知識は身に付けており、選択式の設問には正しく答えることができています。特に、小数、分数を含む四則計算では力を発揮していました。しかし、1アールと等しい正方形の面積の1辺を出す問題についての理解通過率は46.8%、四捨五入で数を適切に処理する方法についての理解通過率は47.6%でした。

この課題を解決するために既習事項から復習し、図形の定義について言葉と図を結びつけて説明することを繰り返し行っています。また、数直線を活用して、指定された概数になる数の範囲をとらえる活動を取り入れています。数の範囲を数直線で連続的にとらえる活動を多く持つようし、概数の考え方を活用する具体的な場面での指導を多く取り入れています。

### B 主として「活用」

平均正答率は、63.5%で県平均、全国平均をともに上回る良い結果でした。特に図形の説明の選択や、位置関係を出す問題では、90%以上の理解通過率でした。しかし、示された式の値が何かを説明する問題や、比例の関係でないことを説明する記述問題では40%台の通過率でした。

算数B全体を通して、自分の考えを筋道を立てて言葉で説明することが難しかったようです。そのため、授業では話型（説明するときの言い方）の指導も取り入れて、考えた過程を言葉や図、式などで表す活動を増やしています。さらに、電子黒板等を使って友達に考えを伝えたり、友達の考えを説明したりする活動を取り入れ、自分の考えを整理して伝える力を大切にしています。

今回のような応用問題に対する苦手意識が高いため、問題集等を活用し、応用問題の読解力が身に付くよう、繰り返し練習していく学習を進めていきたいと思えます。

## 【質問紙】

質問紙は、学習意欲や生活の諸側面に関する質問に答えるものです。

“学校へ行くのは楽しい”と感じている児童は89.5%〔全国85%〕“学校で友達と会うのはとても楽しい”と感じている児童は87.1%〔全国82%〕でした。また“地域行事に参加している”児童は73.4%〔全国63.9%〕でした。充実した学校生活を送りながら地域でも楽しく活動している様子が見えます。

国語では、感想文や説明文を書くことが難しいと感じている児童が64.5%いることがわかりました。学校では、書くための材料集め、構成メモの指導、お互いの読み合い、総合評価で認め合う活動などを取り入れています。また、家庭では、新聞を読むことやテレビのニュースを話題にするなど言葉に触れあう機会をたくさん持ち、その中から自分の意見を持ち表現するよう、懇談会・通信等で呼びかけています。

また、「国語の授業で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか。」の質問に対し、“している”と答えた児童は50%〔全国60%〕でした。そこで、資料や調べたことに基づいて考えを伝えたり、文章に書いたりする機会を積極的に設けています。

算数では「算数の授業で、問題を解くときもっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という質問に対し、“考えている”と答えた児童が67%〔全国80%〕でした。そのため、授業の中で、多様な考え方を話し合えるような発問を仕組んでいき、考え方を交流していくことを通して、算数の楽しさ、面白さを実感させる活動を行っています。